

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧  
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大田区立大森第六中学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

住所 〒145-0063

E-mail : oo6-j03@educet01.plala.or.jp

Website : http://academic3.plala.or.jp/om6j/

児童生徒数：男子 201 名 女子 162 名 合計 363 名  
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

取り組んだ内容

### 1. 環境教育

#### ア 修学旅行 農家民泊

本校の3年生は修学旅行で東北岩手県花巻市の農家に民泊し、農業体験を行っています。生徒は農家で農業体験を行うほか、農家の人と交流を持ちます。農家との交流は卒業しても続き、農繁期には手伝いに行く卒業生もいます。



#### イ 農援隊の結成

学校内ボランティア活動を結成しました。農援隊と名づけ、以降の活動は主に農援隊による活動が多いです。ボランティア活動を通して人とのふれあいを感じ、多くの期待があり、自己肯定感が高まっています。



#### ウ ミミズコンポストの作成

今までは、本校校庭にある落葉広葉樹の落ち葉をごみとして捨てていましたが、校庭の一角にミミズを集めコンポストを作成し、秋には毎朝ボランティアが始業前に落ち葉掃きを行い、コンポストに回収し、腐葉土を作っています。この腐葉土が以降、多くの作物や花の栽培に役立っています。さらに、洗足池の水生植物園でも活用されています。

#### エ ゴーヤグリーンカーテンによる節電

各教室のベランダで栽培し、平成22年度9月電気使用量が19,341kWh、23年度9月15,571kWh、24年度9月17,135kWhと、多少変動があるものの、減少傾向にあり、その後も継続的に活動しています。ただ、外気温による影響も左右されるため、グリーンカーテンによるものだけとは考えにくいのですが、生徒の省エネルギーに対する意識は高まりました。



#### オ ホタル復活プロジェクト

洗足池には昭和初期にホタルが生息していましたが、都市化が進むにつれ絶滅しました。平成23年度、最初200匹から始めました。本校校舎内でホタルの幼虫を9ヶ月間飼育し、6月に放流式を行い、7月初旬から3週間ほどホタルの光を楽しめました。地域の方から感謝の言葉をいただき、また本校の教育活動への関心を寄せていただいています。さらに、24年度500匹放流した幼虫が、今年自然繁殖し、光を放ちました。自生第1号を発見し、地域の方と喜びました。26年度も510匹を飼育し、6月に放流する予定です。

## カ 洗足池の水質浄化

本校自然科学部は洗足池の水質検査を継続的に行っています。その結果、ホタルが自生できる水質では未だないため、千葉県印旛沼の水質浄化に取り組んでいるNPO「野菜いかだの会」の指導を受け、水質浄化のために水生植物用いかだを浮かべました。資金は東京急行電鉄「みど\*リンク」の支援を受け、アルミ製の筏を製作しました。また、「鯉にえさをやらないで」「空芯菜で水質浄化」などの生徒作成のポスターを掲示し、水質浄化の啓発活動など10の班に分かれ、それぞれの活動に取り組みました。



水質浄化の啓発活動など

## キ 江戸伝統野菜「馬込三寸人参」

高齢化は、本地域にも加速しており、江戸伝統野菜である馬込三寸人参の栽培が危ぶまれている。農援隊の話聞き及んだ方から、中学生で何とかできないかと声をかけていただき、栽培農家から種をいただき、農援隊で種をまき、育成にあたっています。まだ試行錯誤の段階ですが、生物危惧種である野菜を存続させていきたいと考えています。



## ク 東急沿線大岡山駅前花壇整備活動

大岡山北口商店街が以前から花壇づくりを行っていましたが、高齢化が進み、中学生に手伝ってもらえないかと声がかかり、4年前から駅前ロータリーの花壇整備活動を行っています。ロータリー中央の花壇には芝桜を植え、毎年花を咲かせ、周辺の花壇には季節ごとの花を植え、メンテナンス作業を月1回行っています。中学生が作業すると、道行く人々から、「芝桜のピンクがきれいですね」「花がいつも咲いていてありがとう」と感謝の声を聴くことができます。



## ケ チューリップで地域を活性化

毎年東急沿線大岡山駅前広場で行われる「さくらまつり」に生徒会や農援隊が参加し、地域商店街の方に協力し、募金活動や本校の活動報告を行っている。今年度はチューリップを「NPO 花とみどりのまちづくり」の方から700個以上の中リップの球根をいただき、校舎内でミミズコンポストの腐葉土で育て、苗のポットを祭りで配りました。地域の方からはとても活気があったと感謝されました。併せて、東日本大震災被災地である南三陸町への募金活動も行いました。



## 2. 防災教育

### ア 目的

平成20年度本校に入学した生徒が生まれた年に、阪神淡路大震災が起きました。「中学生ができること」を考え、実行することから始めたのが、本校第1回目の学校避難所訓練でした。



大災害発生時、中学生は「支援ボランティア」としてその力を発揮することが求められています。また、「学校避難所運営協議会」の方も高齢化が進み、緊急時の運営は困難であると感じました。生徒全員が社会の一員としての自覚を持ち、開設訓練を通して「自分ができること」を知り、互いに助け合う心と実践する力を身に付けることを目的としています。

#### イ 活動内容

大田区立中学校 28 校の最初の学校防災活動拠点として「災害に立ち向かう場所」として「若い力を生かした」防災訓練を地域の人々と一緒に行うことにしました。

平成 24 年度から、前年までの活動を踏まえ全学年で防災教育に取り組んでいます。

1 年生 東京都広域防災施設「そなエリア」にて防災学習

2 年生 「本所防災館」にて消火器の使用方や被害状況、緊急時の対応について学習。

3 年生 「普通救命講習」を受講、防災に対する意識を高めた。大田区総合防災訓練（11 月 11 日実施）に全員が参加。「学校避難所開設訓練」や消火訓練を行いました。

3 月の学習成果発表会にて、各学年の活動を報告。次年度への引き継ぎとしました。

平成 25 年度は、前年度の大田区総合防災訓練の内容を検討し、より実際の災害発生時を想定した訓練となるよう、本校単独の「学校防災訓練」を以下のように実施しました。

4 月 26 日（土）平日の午後 1 時に首都直下型地震が発生したと想定。全校生徒がヘルメットを着用し校庭へ避難。安否確認・校舎内外の安全点検の後、

1・2 年生は保護者への引き渡し訓練を実施。※この状況で引き取りが可能な場合のみとしました。3 年生は「学校防災活動拠点訓練」に参加。発災直後から 5 時間後までを想定し、全員が 9 班に分かれて活動。（仮設トイレ・テントの設置、発電機投光器の操作、ストレッチャーでの怪我人の搬送、備蓄倉庫の物資の運搬やトイレ用水確保のためのバケツリレー。アルファ化米の炊きだしと配布、避難者への対応、要援護者の避難誘導。地域の被害状況の集約、情報の提供や協力の呼びかけ。災害用電話設置。初期消火訓練 B 級 C 級 D 級ポンプ、スタンドパイプを使用。）

3 年生 126 名と教職員・保護者・地域住民等が参加。9 月 10 日（水）普通救命講習を受講。消防士から講話をいただき「自助・共助」について学習後、話し合いました。

#### ウ 活動の成果

5 年目の活動となり全校体制が整いました。今年度の 3 年生は、入学時から段階的に防災学習に取り組んできました。体験学習や訓練を重ね、災害時には「自分たちにできることがある」ことを学び「やらねばならない」と感じています。人の役に立つ人間になりたいと思う生徒が大幅に増えました。意識を高め実践しようとする態度を育てることができました。



今年度は、本校および4小学校に避難する生徒を、その自治体、町会の方との顔合わせも行い、つながりを深めました。

他地域からの問い合わせもあり、講演会等で他地域への紹介も行っています。また、広島県では、本校の取組みを導入し実践されました。

#### エ、まちなか点検

今年度より、2年生120名を中心に、自治会毎に生徒と地域の方が一緒に町を歩き、防災の支店で町を探検する活動を行いました。自治会の方、大田区防災課、消防署、消防団、大学のボランティアで、1班10名ほどのグループを作ります。地域の消火器、消火栓、AED設置場所、避難できる広い駐車場など、災害時に役に立つことと、狭い道路、崩れそうなブロック塀、急な階段など危険赤署などをカメラで記録し、情報を地図上の書き込み、できあがったマップを使い、発表しました。

地域の方と一緒に町を歩き、いざというときに地位のかたと共に活動できる下地を作ることができました。

### 3. 国際交流教育

#### ア ベラルーシの少年との交流

五井平和財団主催の国際ユース作文コンクールで文部科学大臣賞を受賞したベラルーシの少年と、交流会を本校で行いました。

1年生との交流会では、日本の文化を伝える三味線演奏、赤とんぼ合唱、本校紹介のプレゼンテーションを行い、その後ベラルーシの紹介が、少年から合った。給食時には生徒会と一緒に交流会を持ち、日本で流行のダンスと一緒に踊りました。

#### イ 韓国招聘プログラム

ACCU主催韓国招聘プログラムが1月20日(火)に行われました。韓国の小中学校教員33名が来校し、本校との交流会、各クラスで韓国の教員による授業が行われ、とても充実した内容になり、生徒は交流の大切さを学びました。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他( )